

令和4年度富山県文化審議会（第1回）

日 時：令和4年4月28日（木）

午後1時30分～3時13分

場 所：富山県民会館401会議室

■ 諮問

【事務局】 それではまず、知事から会長に対して、文化振興計画に係る諮問をしたいと思いをします。

< 諮問文手交 >

■ 議事

「新世紀とやま文化振興計画（H30改訂版）」に係る後期重点施策の策定について

【事務局】 それでは、この後の会議の進行につきましては、会長をお願いいたします。

【会長】

それでは、これより議事に入ります。

本日、「新世紀とやま文化振興計画」に係る後期重点施策の策定について」を議題といたしますので、これにつきまして、事務局から説明願います。

< 事務局説明 >

【会長】 ありがとうございました。

ただいまの新世紀富山文化振興計画に係る後期重点施策の説明、策定など、ご説明いただきました。

現在は平成30年度から令和8年度までの文化振興計画と、今年度までの前期重点施策で文化行政が進められているというふうにご承知しており、来年度以降の後期重点施策を策定することが、本審議会の課題となっております。

全体計画の本体は現行を維持しつつ、後期、令和5年から令和8年に新たに取り組むべ

きもの、前期に引き続いて続けるべきこと、そして、その中でも特に重点を置いて続けるべきものなどについて自由にご発言いただきたいと思います。また、文化に関する県民アンケートについても審議会の後実施されるということで、こういう点についても調査すればいいのか、ということをご発言いただければと思います。

【〇〇委員】

今の文化に関する会議というのは、大変重要になっていると思います。今、日本は経済的にそれほど元気がなくなってきたてはいます。一方でウェルビーイングの福祉厚生や文化が、実は経済的にも波及効果を持っており、公共投資の経済波及効果は1.56とか1.57ですけども、文化投資の経済効果は1.85程度あり、経済的にもその効果があるというデータが出ている。しかも、文化投資というものは、例えば、音楽会を開くとか、そこに参加した人たちが、生きる喜びを持ったり幸せ感を感じたりという効果もあり、全てを合わせると、大変な有効な投資である。文化は成長戦略の一つの具体的な政策であると同時に、地域おこし・地域活性化のためにも非常に重要な手段になっている。

富山県は、おわら風の盆のように、普通の時だと25万を超すような方々が来てくださるものや、日本的に全部見ても非常に特徴のある県立の水墨美術館、また利賀村の演劇というのは世界には大変よく知られていて、いわば演劇の聖地とまで言われるほどになりつつある。

そういう様々なもの、それから日常的なものに焦点を当てながら、有効にいろいろな予算措置をしたりしていけば、素晴らしい文化県になっていくのではないかな。

【〇〇委員】

このところのコロナ禍で、人々も心が疲弊しきっている状態ですが、一旦はコロナで停止状態になってしまったものをもう1度復活させながら、具体的には、オンラインなどを整え、状況が変わったら富山に行きたいと人々が思えるように魅力を発信していけたらよい。

【〇〇委員】

説明を聞きまして、2点ばかりお話させていただきたいと思います。

一つは、少子高齢化がまず大きな課題。若い世代に文化にたくさん触れてもらって、そ

して、文化の担い手を増やしていく方策が必要。

二つ目は、県民アンケートの項目等々関わってくるが、県民への文化の意識に係る定性的な評価につきまして、富山県が文化の力を生かして、まちづくりなどの取り組みを進めているという意識に関するアンケート項目もあれば、より評価しやすいのではないか。

それから、高齢者から、障害者、そしていろんな方々が何度も県内の美術館や文化施設等に足が運べる環境づくりが県民にとって大変必要。また、情報の提供も情報機器を使ってとりこんでいくべき。

【〇〇委員】

最近はコロナ下にありまして、文化に飢えています。延期・中止が相次いでいるところですが、先だって、高岡茶会を昨年よりは今年規模を大きくして催したら、大変喜ばれました。改めて私たち自身も自分たちの活動の意義を感じた。

やはりお金をかけることも必要。今後、文化が地域を育てるとすれば、関連するお店、産業も育てなければいけない。

文化っていうのは人々の心の中、体の中を流れている。ぜひ富山のいいところを見つけ出して、富山に生きる喜び、富山に生まれた喜びが感じられるような、そういう施策を提言できていけたらと思う。

【〇〇委員】

富山には発掘すべき様々な文芸作品や民謡など、たくさんあると思う。そういうものをぜひ次の世代に伝えていただきたい。

また、県民には文化施策全体がわからない。全体像をわかりやすく説明していく必要がある。それから、富山全体の、自然や歴史や民俗文化が一目瞭然に説明できるようところがない。

【〇〇委員】

戦後の長い間、地方というのは、東京からの文化受信者の立場であった。日本の将来を語る上で日本の文化GDPを向上させるためには、文化の地方分権、地方が受信者から発信者へと立場を変えるしかないというふうに思っている。

富山に来たら、本当に多様な独自の文化を持っている。富山の持つ、多様で、しかもそ

れぞれがエッジのきいた演劇でも、工芸でも、デザインでも、いろいろなものを持ち、それで金屋町楽市では、その町に集約した形で、発信型のふるさとづくりというのを行ってきましたし、そのあとは、ガラス美術館の創設とか、映像トリエンナーレの創設とか、様々なことをやってきました。

県の役割というのを、県の文化施設とか県の施設だけではなくて、その全体をネットワークする一つのハブとしても機能していただきたい。様々な情報ネットワークの主管、コントロールではない、その集中するためのパワーづくりというものをしていただきたい。

そして、担い手の育成はどの分野でも非常に重要なことであるが、日本が一番遅れているところでもあります。前に立つ作家やアーティストだけではなく、それを支える人たちを育てることが持続可能な文化づくりのコツである。当然、表立つアーティスト、表現者の方々が必要ですけれども、今はそれが、演劇のようにプロジェクト、チーム化して臨むということが、アートでも当たり前になってきています。富山もそれをできるような体制を、非常に期待をしております。

【〇〇委員】

県内の文化財に関わらせていただいているが、大変すばらしい、特に祭りなんかがあるわけですけれども、このコロナ禍で、なかなか祭りができない。さすがに3年やらないともう継承すら難しくなっている。富山の誇るそういう祭り、特に獅子舞なんかはもう、ほとんどのところが、これだけある県は少ない。曳山の文化に関しても同様で、このコロナ禍で、曳き始まるようにはなったが、ぜひ継承を。

資料3番の一番の文化、次世代担い手の育成に一番には歴史文化のことが入っていない。伝統、地域に根差したその伝統の歴史文化の継承を加えるべき。

それと、最初、富山に来て感じたのは、やはり総合博物館。全国で総合博物館のない県は少ない。県の歴史や文化、自然、祭りを知ることができ、把握できる総合博物館が欠けていると感じる。

女性の旅行家で最近あるイザベラ・バードっていう方がすごい。日本の文化、それも、ごく当たり前のものに感動している。幕末から明治にかけて来られた方が、日本の文化に対して、他国との違いで表現しています。富山にも、それぞれの地域で、独特の文化を持っているので、情報発信していくべき。曳山の例を言うと、町内にあるから、地元のひとは見に行かないが、富山らしさがある。そういったものも、発信していただければ。

【〇〇委員】

たくさんの施策書いてあるが、子供と言っても、0歳から幼稚園、小学生、中学生、高校生までぐらいが、教育を必要とする子供というジャンルになる。本当に年齢は幅広い。

特に小さい子供の場合は、自分の意思で何かをすとかことができませんので、結局イコール親で、その子供の背景にある家庭であるとか家族であるとか、親兄弟、そういう人たちの日々の暮らしや価値観が子供を作っていくこととなる。次の出会いとしては学校であったり、教師であったり、保育士というようなことが重要。この子供と文化について可能であれば、他施策の一部ではなく、一つのジャンルとして、分けて見ていくことも必要。

子供たちが生でいろんな体験をして、ちゃんと心、豊かな情感、感受性を養うためには、やはり親も一緒に取り組める環境があればよい。

【〇〇委員】

この文化振興計画の前期を振り返ってみますと、次代を担う子供たちという点からは、やはりこのコロナというものの影響が非常に大きく、通常はやれたことができない状況が、約2年間続きました。

その中で逆によかった点についてはICTを利用して、例えば、芸術鑑賞する、それから、ワークショップをする。今までは本当に特定の人しか関係できなかったこと、参加できなかったものが、逆に幅広くなり、たくさんの人たちがいろんなことを知る機会にもなった。入口が広まり、興味を持つ人が多くなったのではないかと思う。

生の舞台等で、実際に肌で感じるものはあるが、こういうITCを活用することによって、多くの人たちに芸術文化を浸透し、例えば学校の、学校教育の中でも、上手く取り入れてもらうことで、この文化との連携が取れるのではないかと強く思っております。

育成事業は、本格的に始めたいとか、もっと勉強したいという子供たちにとっても、いろんな指導者に出会うということはすごくいいと思う。1人の先生の固まったものよりも、多くの方たちのエキスを吸うことで、その分野の中での広まりというものもある。実際、音楽、舞踊、合唱などの分野において全国で高い評価を受けるようになってきており、成果が現われているのではないかなと思っている。

国際的な事業では、4年に1回富山で開催されます「とやま世界こども舞台芸術祭」。世

界、全国から子供達が集い、お互いに交流し、異文化に触れる。富山にいながら世界を感じる、いい機会になっていると思います。

そうした子供たちが大人になっても、また高齢者となっても、富山の芸術文化をずっと時代とともに支えるような形になっていけばいいと思います。まずはやはり一番大切なのは子供たちの芸術文化を育むこと、それが自然に入ってくるような体制になればいいと思う。

【〇〇委員】

文化の次世代の担い手の育成というところでは、やはり高校生は、創造的文化芸術の発展振興を担っていると思う。

全国高等学校文化祭では、本県から19部門29校310人が参加したが、中でも郷土芸能部というものがありまして、賞をいただいた。また富山県高文祭ではでもやはり郷土芸能、こちらの方は八尾高校の越中おわらなど、大変完成度の高いものを見事に県民の皆様に披露している、そして素晴らしい成果を挙げているという意味では、伝承はとても大切

高校生の力はとても無限大というふうに思っておりますので、今日ご意見いろいろお聞かせいただきまして、ICTなどを上手に活用し、ウィズコロナということを考えながら、生徒たちが輝く姿を目指していきたい。

【〇〇委員】

コロナですごくはっきりしたことがありました。舞台芸術はやはり、同じ場所に集団で一緒にいて、長い時間かけて作るものであり、芸術文化の中でも特に打撃を受けた分野だった。ところが、利賀は非常に自然に恵まれて、また野外劇場も二つあるものですから、ソーシャルディスタンスも十分保てますし、稽古を続けられた。

東京とか大都市では全くもう公演や稽古もできないが、逆にそういった方たちが利賀に来て、ウィズコロナでも芸術活動の継続ができると、若い世代の東京の方に今回発見された。そういう意味では非常にその地方の可能性というのが、いい意味でもはっきりした。

ウィズコロナ或いはアフターコロナが、文化芸術の一つの課題であると思うが、そういった中での富山の可能性を盛り込んでいただければ。

【〇〇委員】

文化の中でも食文化に関して、今食文化、特に郷土料理も結構廃れている。学校では一応、食文化についての授業もあるので、多少子供たちは学んでいるが、おばあちゃんやお母さんからのものが、なかなか今は伝わらない。一方で、コロナ禍で、自宅で、お料理してみたりする人も増えており、そういったものをうまく生かしていけないか。

あとは、富山が誇るおいしいお米やお魚やお水や食文化が、県内外の方とかにもそういう富山が誇る食文化に触れてもらえるような企画もしてもらえたらいいのではないかな。

今の子供たちの食文化の現状についてアンケートしてはどうか。

【〇〇委員】

子供の成長に関わる大人の育成が必要だと思っています。子供たちには、小さな頃から親がいて、学校があって、小学校、中学校、高校と、そして大学と上がっていきますが、それぞれの立場の中で、その関わる先生方がどれだけ文化に関して芸術に関して関心を持ってきているか。

それを受けて、また新たに、次の世代を、産んでいくとか育てていくという意味で、県にできることは何か。これからの施策の中で考える必要がある。

【〇〇委員】

経済界とのさらなる連携を検討していただきたい。経営に文化力は欠かせないとして、経済界においても文化の視点は重要視している。

富山経済同友会で文化スポーツ委員会という委員会が活動しており、昨年一年だけでも、立山信仰の歴史文化、国際的な視野で見つめる伝統工芸、そして大阪の国際博覧会の勉強会など知見を広めているところである。特徴的なのは、発信力のある様々な全国区の企業の支店長さんたちがたくさん参加されていること。

すばらしい文化イベントも、届けたい人にどのように届けられるか。発信力がとても大事。建築、それからデザイン、アート、最近はファッション、ここに関わる分野でも、富山と首都圏、場合によっては海外、この2拠点をベースにして活動する、20代、30代、40代、次世代が出てきている。全国区、国際的にも活躍しているこの世代、子供の頃とか学生の頃に、富山で文化教育を受けた人たち、この世代の巻き込みやネットワーク、それから発信力も見逃せない。

【〇〇委員】

このコロナになってから文化芸術芸能の活動というのは、不要不急ということで、随分苦勞されてこられたし、こういうものは明るい社会に向かっていくときに、非常に大事なものである。

担い手について、富山県、吹奏楽だけのこと言いましても、経験者が非常に多くて、小学校、中学校、高校或いは大学でやってこられたけども、社会人になるとどうしてもやめてしまう。何か機会があったら、復活してやってみたいと思うような人がきっといると思うので、アンケートで意見を聞けばどうか。

また子供さんを広く育てて、裾野を広くした上でその広いまま上に上がっていくと、県内の活動的にも、全体として底上げできるのではないか。

またオタクも文化とかいう言葉があります。きっと文化の一翼を担っていると思ひまして、ご協力できればいいかなと思う。

【〇〇委員】

先ほど富山県の自然や歴史文化を紹介するものはないのかというお話について、県の広報課で「とやまの姿」というパンフレットがあり、富山県の産業や文化について紹介するのにいい。

文化を観光に生かしていくということであれば、分かりやすく説明することが大事。中身が分からなければそこに行ってみようとは思わない。地域や施設の方々と一緒に、発信していかないと、観光にはなかなか生かすことが難しい。

地域や住民や施設の方に、そこにしかない特色のあるものをPRしていただくことが一番大事ではないかと思う。